

更新講習会・講習内容の確認について

平成 27 年 7 月 日

登録番号		氏名	
------	--	----	--

1. 「診断と補強について」から、次のア～オの記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください。

(ア) 耐震診断とは、大地震によって建物が損傷する可能性があるかどうかを判定することである。 (×)

(イ) 三重県マニュアルに従って一般診断を行う場合、必要耐力の算定は建築基準法施行令に準じた精算による。 (○)

(ウ) 「診断専用」として扱う塗厚 50mm の土塗り壁を、補強部材として使用してはいけない。 (○)

(エ) 三重県プログラムにおいては、1 階鉄筋コンクリート造+ 2, 3 階木造の 3 階建て混構造の住宅は適用範囲外である。 (○)

(オ) 開口の有る壁は耐力壁でないため、耐力に算入してはいけない。 (×)

2. 「Q&A と判定会からの留意点について」から、次のア～オの記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください。

(ア) 昭和 56 年以前に、既設建物と柱、梁別建てで増築されていたが、一体化しているものとし、1 棟の建物として診断を行った。 (×)

(イ) 筋かい(L : 30×90 以上 シングル くぎ打ち) が存在している壁長が 600 mmであった為、筋かいを考慮して診断を行った。 (×)

(ウ) 壁端柱の柱頭・柱脚接合部の仕様について、ほぞ差しで構面の両端が通し柱となっていた為、1・2 階ともに接合部Ⅲとした。 (○)

(エ) 910 mmの無開口壁に、同じ仕様で同一線上隣接した両端に本柱がある 455 mmの無開口壁が存在していた為、壁長を 1365 mmとして診断を行った。 (○)

(オ) 有開口壁について、片側に耐力評価ができる無開口壁が存在していた為、窓型開口部は0.6kN/m、掃き出し型開口部は0.3kN/mとして評価した。
(○)

3.「補強の問題点と注意事項について」から、次のア～オの記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください。

(ア) 工事の着手前に施主に対して、工事計画や補強後に大地震を受けた場合の被災の可能性や損害程度については、不安を仰ぐので説明を控えた。

(×)

(イ) 対象建物が軟弱地盤であるため、必要耐力を1.5倍として補強計画を行った。

(○)

(ウ) 無筋コンクリート造の基礎の上部に構造用合板(両面)及び45 x 90 筋違(両面)を併用し強固な壁を構築し、耐力の増加を図った。

(×)

(エ) 補強工事中に梁柱等の劣化が確認されたが、補強計画に記載されていないことから工事を現況のまま進めた。

(×)

(オ) 45 x 90 筋違の金物取り付け時に引き抜き金物が規定を満足している場合、筋違金物にB P 1.5 は使用可能である。

(×)

開始から15分が経過しましたら、お帰り頂いても結構です。

その際用紙を裏向きにし、受講票を示し修了証明書をお受け取りのうえ、お帰りください。

お忘れ物のないように、気を付けてお帰り下さい。本日は、お疲れ様でした。

考査時間内の退出は、

お静かにお願いいたします